

山元町

くま さく

むかいやま

熊の作遺跡・向山遺跡

現地説明会資料

平成 25 年 10 月 19 日 (土) 10:30 ~ 宮城県教育委員会

【調査要項】

遺跡名：熊の作遺跡・向山遺跡

所在地：亶理郡山元町坂元字熊ノ作・向山

調査原因：常磐線復旧計画

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査協力：東日本旅客鉄道株式会社

山元町教育委員会

調査期間：平成 25 年 4 月 15 日～

(向山遺跡は調査終了、熊の作遺跡は 11 月まで調査予定)

調査面積：熊の作遺跡＝約 2,400 m²

向山遺跡 ＝約 900 m²

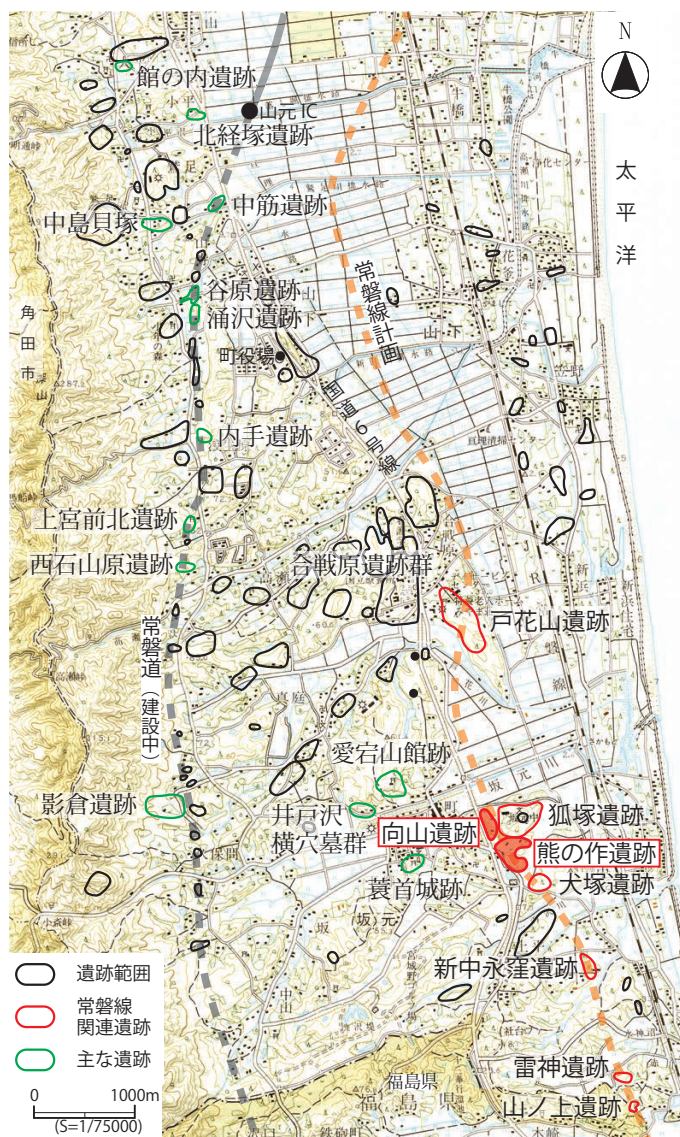
はじめに

山元町では、東日本大震災により不通となっている常磐線の移設計画が進められています。町南部の坂元地区には、計画路線内に戸花山遺跡など 8 遺跡が確認されており、縄文時代～中世の遺構・遺物が見つっています。宮城県教育委員会では工事に先立ってこれらの遺跡の発掘調査を実施していますが、震災からの復興事業として早期の調査終了を目指し、他県市職員の応援を得て、迅速に進めています。

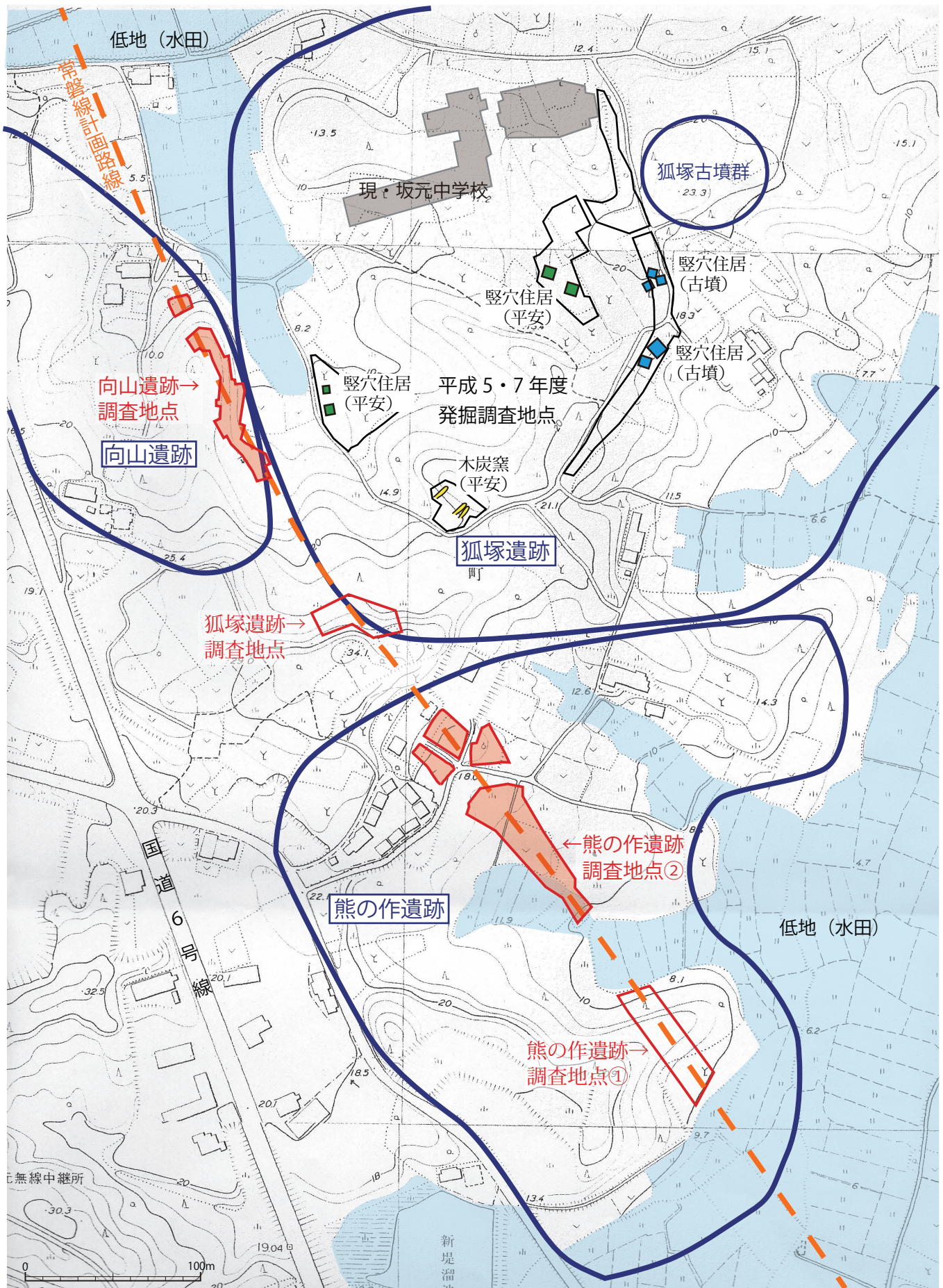
熊の作遺跡と向山遺跡では、特に奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居や掘立柱建物などが発見され、土器・石製品・鉄製品・木製品などの遺物が多数出土しました。



写真 1 熊の作遺跡調査風景 (北西から)



第 1 図 常磐線と山元町の遺跡分布



第2図 熊の作・向山・狐塚遺跡の範囲と調査地点 (昭和55年地形図より作成)

※狐塚遺跡では、坂元中学校建設や道路整備に伴い平成5・7年度に発掘調査が行われており、古墳時代の竪穴住居や、平安時代の竪穴住居・木炭窯などが見つかっています。

熊の作遺跡の調査

古墳時代～江戸時代の遺物が出土していますが、特に平安時代前期(9世紀)頃の掘立柱建物が5棟以上、竪穴住居が3軒見つかっています。



写真2 A～C区全景(北西から)



写真3 竪穴住居①②(東から)
大きい方は一辺約8mあります。

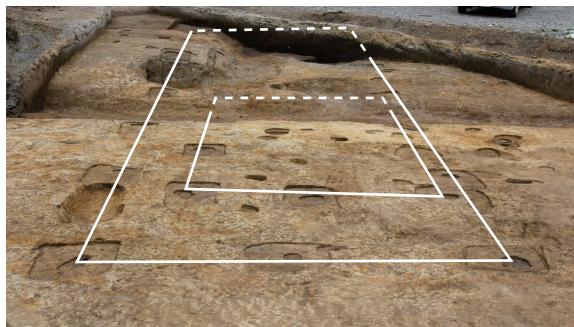
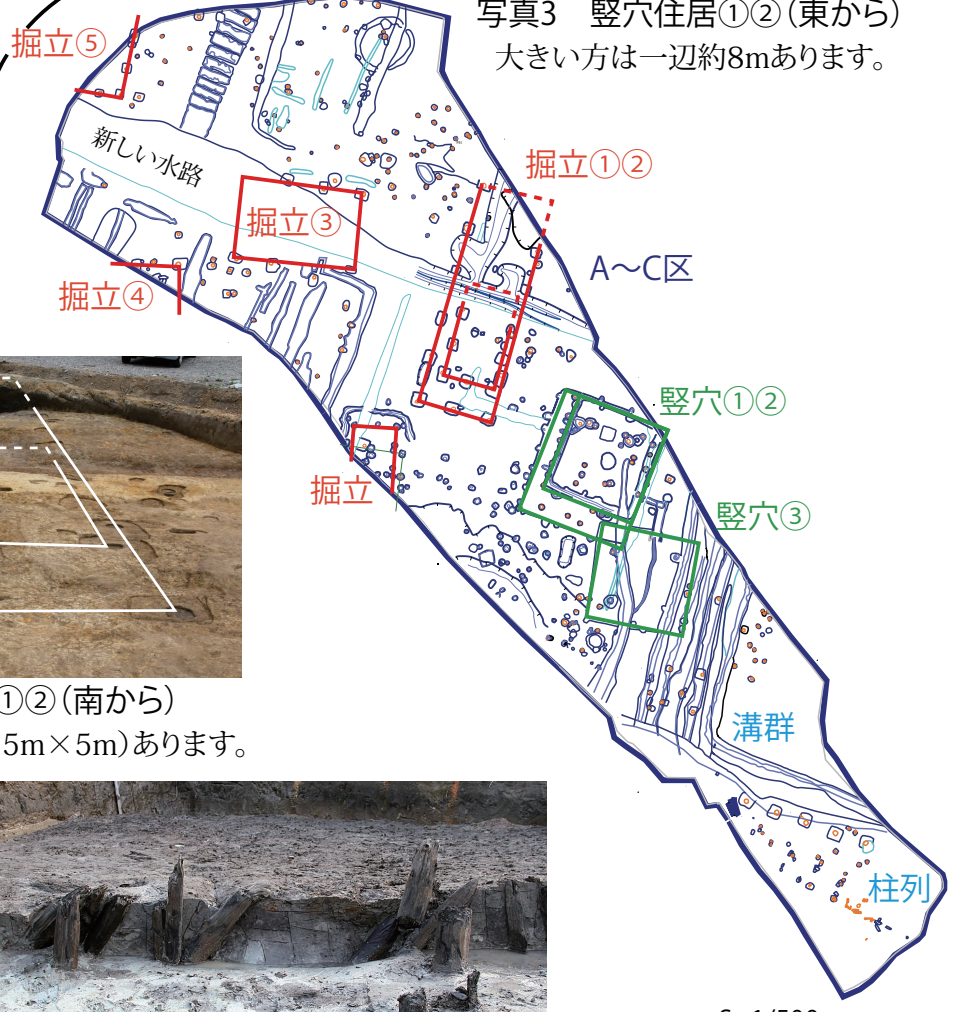
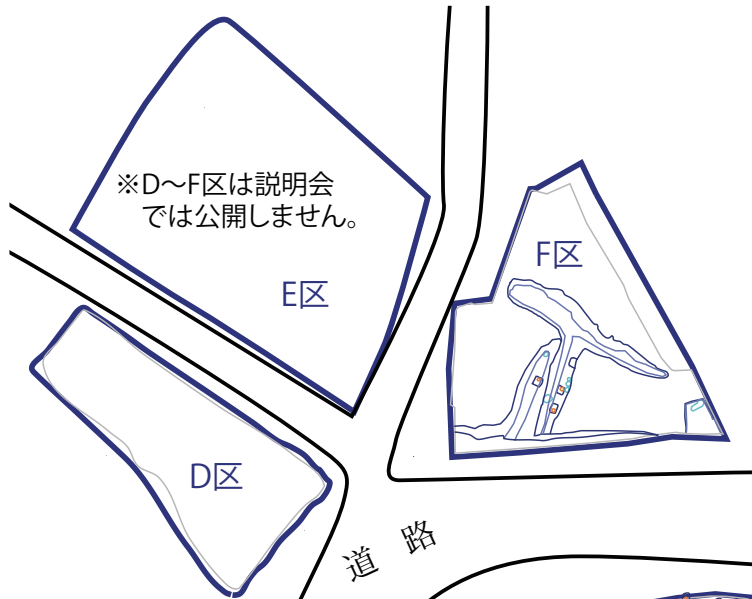


写真4 掘立柱建物①②(南から)
大きい方は5間×2間(約15m×5m)あります。



写真5 低地に残る柱列(北から)
複数の柱列が東西に並んで立てられていました。

向山遺跡の調査

平安時代前期(9世紀頃)の掘立柱建物5棟、
 竪穴住居8軒が見つかりました。建物内からは
 鍛冶炉が多数見つかり、主に鉄製品の製作に
 関わる工房であったと考えられます。



写真6 向山遺跡調査区(東から)



写真7 竪穴住居⑤(北東から)
 斜面に掘られた竪穴です。



写真8 竪穴住居⑤カマド(東から)



写真10 掘立柱建物④(南から)
 竪穴④⑤を埋めて作られました。
 人が立っているところが柱の跡、
 鍛冶炉(赤丸)が並んでいます。

まとめ

熊の作遺跡では、「坂本願」と書かれた奈良時代の墨書土器が出土しました。古代の文献『和名類聚抄』には、わみょうるいじゆしやう 巨理郡内の郷名として「坂本郷」があったことが記されており、現在の坂元地区の起源である「坂本郷」がこの遺跡の周辺に存在したことが明らかになりました。また、平安時代には、大型の掘立柱建物や竪穴住居、石製の帯飾り具の存在から、この地域の有力者（豪族）の居宅があったと考えられます。

向山遺跡では、平安時代の工房が多数見つかりました。工房の中には複数の鍛冶炉がつくられたものもあり、鉄滓・ふいご 鞴の羽口など鍛冶に関連する遺物が出土しています。山元町～福島県相馬地方にかけては、古代の製鉄遺跡が多数存在することが知られており、鉄製品を製作した工房群の一つと考えられます。

今回の両遺跡の調査では、平安時代に鉄製品を製作した工房群と、その管理にあたったと想定される有力者の居宅が見つかり、貴重な成果が得られました。

関連年表

	年代	日本・世界の出来事	山元町の主な遺跡	
旧石器時代				
縄文時代	草創期	16000 年前	・土器・弓矢の使用が始まる	
	早期	12000 年前		
	前期	7000 年前	・気候が温暖化、海水面が上昇する	北経塚遺跡（小平）
	中期	5500 年前	・三内丸山遺跡で大集落が営まれる	西石山原遺跡（高瀬）
	後期	4500 年前	・黄河文明・エジプト文明・インダス文明	谷原遺跡（山寺）
	晩期	3300 年前	・東日本で亀ヶ岡文化が栄える	中島貝塚（鷺足） 影倉遺跡（久保間）
弥生時代		2500 年前	・日本に稲作が伝わる ・邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る（239 年）	中筋遺跡（鷺足）
古墳時代	前期	1700 年前	・近畿地方に前方後円墳がつくられはじめる	北経塚遺跡（小平）
	中期	1600 年前		合戦原遺跡（合戦原）
	後期	1500 年前	・仏教が伝わる（538 年）	狐塚遺跡（町）
	終末期 (飛鳥時代)	1400 年前	・大化の改新（645 年）	井戸沢横穴墓群（下郷）
古代	奈良時代	1300 年前	・平城京 遷都（710 年） ・多賀城がつくられる（724 年）	館の内遺跡（大平） 涌沢遺跡（山寺）
	平安時代	1200 年前	・平安京 遷都（794 年） ・陸奥国大地震（869 年）	内手遺跡（浅生原） 上宮前北遺跡（浅生原）
中世	鎌倉時代	800 年前	・源頼朝が鎌倉幕府を開く（1192 年）	
	室町時代	600 年前	・応仁の乱（1467 年）	谷原遺跡（山寺）
	戦国時代	500 年前	・織田信長入京（1568 年） ・豊臣秀吉全国統一（1590 年）	愛宕山館跡（下郷）
近世	江戸時代	400 年前	・徳川家康、江戸幕府を開く（1603 年）	蓑首城跡（下郷）

出土した古代の遺物 (写真 11 ~ 16 が熊の作遺跡、17・18 が向山遺跡)



写真 11 熊の作遺跡竪穴住居②の土器出土状況です。



写真 12 奈良時代の須恵器(すえき)で、器の底に「坂本願」と墨書されています。



写真 13 粘土を積み上げた痕を残すのが特徴です。



写真 14 役人など身分の高い人が帯に付けた飾りで、裏側にヒモを通す穴があります。



写真 15 糸を紡ぐのに使われました。左は鉄製、右は滑石(かっせき)製で鉄軸です。



写真 16 曲物(まげもの)とよばれる容器の一部です。



写真 17 手前の土器は漆(うるし)の容器に使われたため、内面に漆が付着しています。



写真 18 羽口は炉に風を送る土製の管、鉄滓は炉の底にたまった不純物のかたまりです。